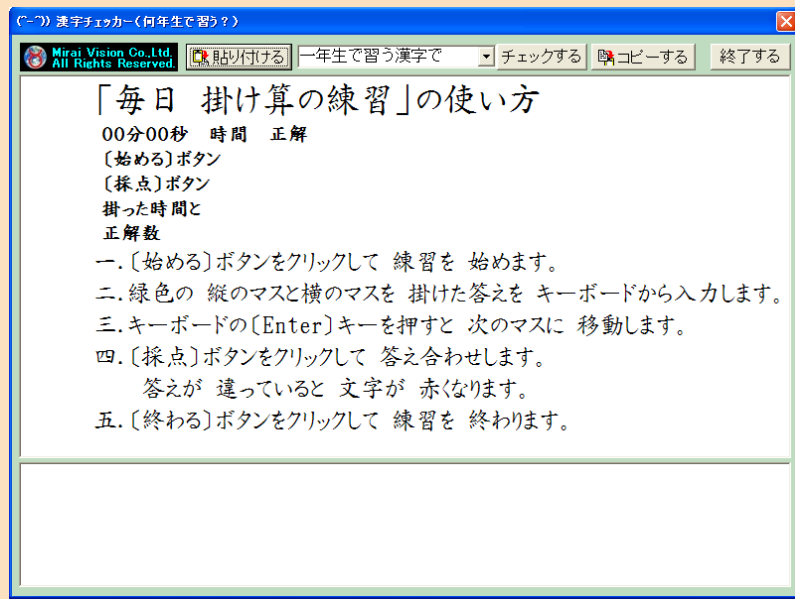


「漢字チェッカー（何年生で習う？）」の使い方

1. チェックしたい文をクリップボードにコピーして、〔貼り付ける〕ボタンで取り込みます。また直接、文を入力することもできます。この場合、フォントの指定や変更はできません。12ポイントの固定になります。

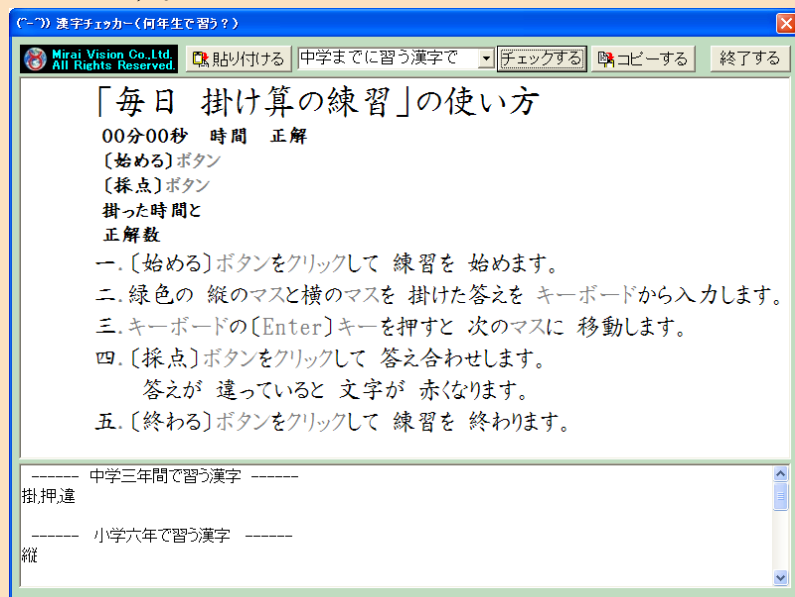


※取り込んだ文は上の枠（ペイン）に表示されます。

この例は「毎日 かけ算のれんしゅう」の説明文をクリップボード経由で取込んだものです。原文をワード(R)で作成していて、フォントサイズやフォントスタイルが設定されています。

2. チェックレベルを選択して〔チェックする〕ボタンでチェックを開始します。文中にレベルに合わない漢字が見つかったら、その漢字が赤く変わります。

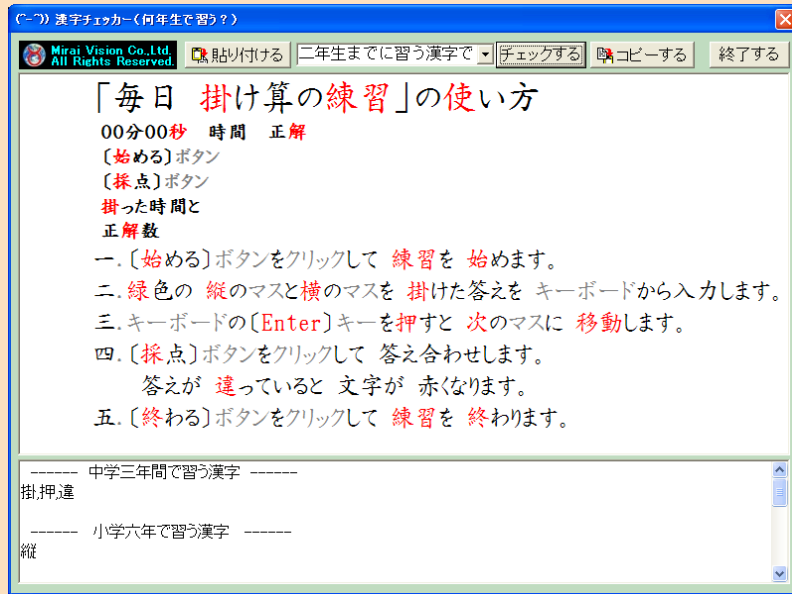
試しに、「中学までに習う漢字で」レベルでチェックすると赤く変わる漢字は有りません。よって、この文を一般成人を対象にした場合、漢字の使用方法に問題が無いと言えます。



※片仮名とアルファベットが灰色に変わったのは、片仮名やアルファベットは文の対象によって説明や言い換えが必要なので、その注意を喚起するためです。

※参考までに、下の枠（ペイン）には文中の漢字を学年ごとに分類した結果が表示されます。

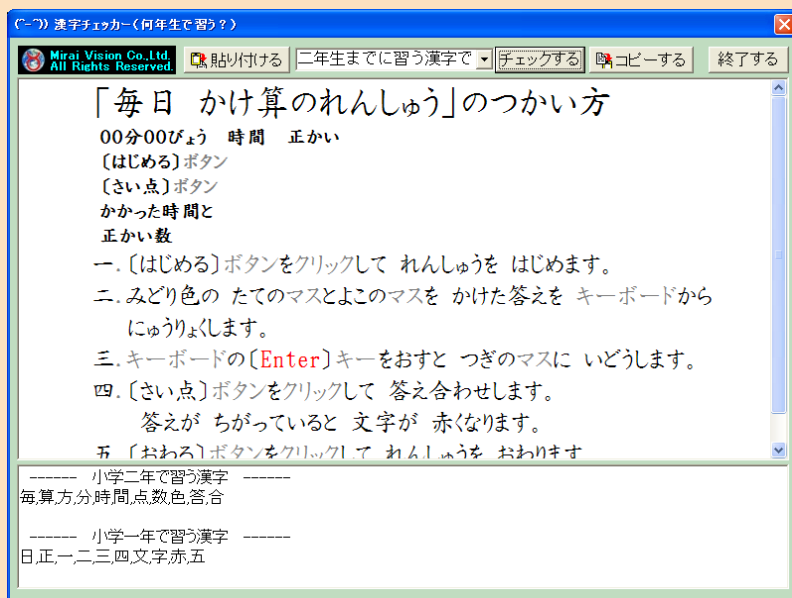
3. 例えば、この文が小学3年生に適しているかをチェックするには、レベルに「二年生までに習う漢字で」をセットして「チェックする」ボタンをクリックします。すると、小学2年生までに習っていない漢字が赤く変わりました。



※「Enter」が赤く変わっているのはローマ字を小学4年生で学習し、その時アルファベットが出てくるからです。「四年生までに習う漢字で」以上のレベルでチェックすれば灰色で表示されます。

4. 赤く変わった漢字を平仮名に変更します。再度チェックを行って赤く変わる漢字が無ければ、漢字の使用方法としてはOKです。

ただし、漢字を平仮名に直ただけでは難しい表現のままになるような場合、理解できるように言い換えや説明および振り仮名の追加が必要です。



※「Enter」が赤く変わったままなのは、キーボード上に「Enter」の表示が有るので、そのままでも十分理解できると判断したからです。

5. もとの文を直接修正するか、「コピーする」ボタンで編集結果をクリップボードにコピーします。灰色に変更された文字が有るので、必要に応じて変更してください。最後に「終了する」ボタンで終わります。